

# 日本の資源と戦略物資 「国力の方程式」とは

東京都知事

こいけ ゆりこ  
小池 百合子



聞き手  
むらたて いさお  
室舘 勲  
(株式会社 潮流社  
代表取締役社長)

## 英語劇をプロデュース

——東京都のトップとしてお忙しい中、ありがとうございます。小池都知事は先代の故・矢野弾との親交もあり、そのご縁からも、この度のインタビューの運びになりました。



小池 百合子 氏

小池 父が矢野弾先生と友人でしたので、そういった経緯もあり、矢野先生にはご指導いただきました。

—— 本日は小池都知事の人生、そして今後の東京都の方向性なども含めてお話を伺いしたいと思います。まずは生い立ちと、これまでの経緯など伺いできますか。

小池 私は兵庫県に生まれました。通った幼稚園は、当時新設された幼稚園で、その一期生でした。父がPTAの会長をしていたのが関係したのか、卒園式ではバイオリンのソロ演奏を披露することになりました。「やりたくない」と思いながらも、モーツァルトの「きらきら星変奏曲」を弾いたのを覚えています。全然上手く弾けなかったのですが、それは今でもトラウマとして残っています。幼少期

の苦い思い出です。(笑)

その後、公立の小学校を卒業してから、中学と高校は私立の女子校でした。そこではソフボール部や、ESSで活発に活動をしていました。ESSでは英語の勉強をして、英語劇の脚本を書いていました。アポロ11号の月面着陸の様子を、NASAとアポロ11号と、それを放送する日本という、三元中継式に仕立てた劇の脚本をつくったこともあります。セリフを書いて、誰を主役にしてなど考えて、その頃から、どちらかと言えばプロデュースが好きだという感覚がありますね。

女子校でしたけれども、中学校、高校ではずいぶん暴れて、元気に過ごしていました。

——活発な学生だったのですね。

## 中東への留学を決意

小池 高校時代のある時、中東地域への留学を突然思いつきました。父が石油関連の仕事をしていて関係で世界中を回っており、中東調査会が発行している「中東・北アフリカ年鑑」という本が家にありました。中東や北アフリカ各国の国勢や歴史がまとまった本です。当時、中東やアフリカ地方をまとめた本なんて珍しいですよ。それをペラペラめくって眺めている時に、エジプト、そしてカイロが目にとまって、カイロ大学、学部はいくつあって、生徒数は何万人というのが書いてあり、そこで留学先を決めました。

## カダファイ大佐へのインタビュ

——留学以降はどのような経緯がありましたか。

小池 カイロ大学への留学を経て、エジプト語を修めましたので、卒業後は翻訳や通訳の仕事を頼まれることがありました。皇室の方への通訳を頼まれたこともあります。サウジアラビアの大臣がいらっしゃった時に、皇太子妃殿下の通訳をしました。大臣たちを赤坂御所にお連れしたとき、皇居勤労奉仕（ボランティアで皇居や御所を掃除する人たち）の方々に気付いた大臣から、「あの人たちはなんだ？」と聞かれたので「ボランティアで来

ただ、母から「何かあるかわからないから、まずは日本の大学に行きなさい」と説得され、関西の大学を受けて入学しました。しかし、気持ちちは最初からカイロに向いていて、入学したばかりの大学を中退し、カイロ大学へ留学しました。実はその少し前に、母には、東京の大学に行きたいとも相談していました。母に「東京の大学に行きたい」と言うと「そんな遠いところはダメ」と言われ、うーんと思いついて、しばらくしてから「カイロ大学はどうか」と聞いてみたら「それは良いわね」という話になりました。あまり距離感は無関係ない人なんだなと思いました。（笑）

——素敵なお母様ですね。そういったご両親の影響もあって留学を決められたのですね。

「いられている方々です」と言ったら大変驚いていらつしやいました。「お金を払っているんじゃないのか？」と聞かれ、「いえ、違います」と答えると大層驚いていたことが印象的でしたね。

こうした仕事の延長で、北アフリカのリビアにも行きました。カダファイ大佐のインタビューを録るというのが目的でした。私一人で3週間、トリポリに滞在し、外務省に毎日出入りして、情報担当官と人間関係を築いていきました。だんだんと上の階層の方ともやり取りができるようになって、ベンガジの野営基地の様などころで、カダファイ大佐に会って取材ができました。その時はすごく達成感がありましたね。

——それはすごい体験ですね。



小池 カダ

ファイ大佐が  
言っていた  
のは「我々  
がテロリス  
トなんてと  
んでもない。  
欧米こそが  
テロリスト

だ」ということです。そもそもの認識から違

うんだなということも感じました。これら一連の取材は当時、大スクープでしたので、日本テレビの社長賞をチームで受賞しました。当時は通信手段がテレックスで、毎日日本とテレックスを自ら打ってやり取りをしていたことを覚えています。

**小池** 日本テレビの社長賞受賞をきっかけに、竹村健一さんともご縁をいただいたことがきっかけです。そこからキャスターのお仕事をいただき、その後「ワールドビジネスサテライト」などのお仕事にもつながっていきました。

## エネルギー政策「HTT」

——私も世代的に、小池百合子さんに対してはキャスターの印象が強くあります。その後、国会議員になり、環境大臣、防衛大臣を歴任されました。環境大臣時代の「クールビズ」の旗振りなども印象的でした。その後、東京都知事に就任されて、様々な取り組みを實行

カダファイ大佐にご両親に会えるかと聞くと「良いよ」ということで、カダファイ大佐のお父さんとお母さんにもお会いできて、話を聞くことができました。シウルテという生まれ故郷で、年齢を聞いてみても、出生届もなかった環境なので誰も分かりませんでした。「息子はよくやつとるんじゃ」と自慢していました。カダファイ大佐に直接会って、更に両親にも会ったメディアの人間というのは世界中でもあまりいないと思います。

——子供の頃から突破力がすごいですね。

**小池** とにかく、目標に対して一歩一歩、一生懸命やっていたのがつながっていった形ですね。

——その後、キャスターへの転身のきっかけがあったのですか。

されて今に至りますが、今後の都政についても伺いたいと思います。

**小池** 私がいつも言っていることに「国力の方程式」というものがあります。「国力＝A×B」であり、Aとは「人口＋経済＋国防」の3点です。それにかかるBは、「戦略＋意志」です。例えば、Bにおいて言えば、戦略をコンサルティングファームに頼めば、もうそれは綺麗なものを描いてきます。しかし、それを主体的に実行する明確な意志が無ければ実現できない、ということですよ。

——国力の方程式ですか。

**小池** その図式の中で、Aの「経済」と「国防」の両方にかかわるのが、「エネルギー」です。国家における血液と言っても過言ではありません。現状の日本は、ギリギリの運用



## 日本の戦略を練り直す

を続けて、いざという時の輸血すら満足にできない状況です。昨今のウクライナ・ロシア情勢のあおりを受けて世界的にも顕著ですが、いかに資源の脆弱性が日本の国力を弱めているかということでは、そのために今、何をすべきかということでは、東京都では、電力を「減らす（H）」「創る（T）」「蓄める（T）」取組を推進しています。キーワードは、頭文字をとって「H T T」。

まずは「減らす」。エネルギー資源が潤沢で余裕があるのであれば問題ないのかも知れませんが、資源そのものが足りない状況。世界的にも取り合いになっていきます。だから、まずはエネルギー消費量を「減らす」しかないですよ。

次に「創る」。再生可能エネルギーを中心に

で夏場の電力需給ひっ迫はなんとか切り抜けましたが、この冬場の電力需給も正念場です。

小池 もう一つ、日本が取り組むべきは「戦略」です。日本は過

去、ものづくりで発展しました。70年代のオイルショックでイノベーションが進みました。しか

として、エネルギーを創り出していき、ということでは、具体的例として、太陽光発電。東京は空き地は少ないけれども、屋根は空いています。これを使わないことはないよね、ということでは太陽光発電設備の設置を積極的に推進しています。

そして、「蓄める」。これは意外と、世の中にもあまり考えてこれなかった経緯があります。使用しなかった電力を蓄えることができれば、電力の安定利用にも貢献します。そこで、走る蓄電池ともいえるEVの充電設備の普及など、電力を「蓄める」取組を促進しています。

これらの取り組みを「H T T」というキーワードで、皆様に「これ何かな？」と興味をひいてもらえるようにしました。おかげさま

し、それらの優位に立っていた技術などは他国に流出していった。ましてや、半導体という一番ポイントとなるものが、今では中国・韓国・台湾といった他国に依存しなければならぬ状態になっています。

日本の強みを活かすためには、なんでもかんでもやれば良いというわけではなく、扇の要となるポイントを押さえることができれば、他の国に対して日本が優位性を確保できる状況が作れます。

逆に、日本はいま、他国に対する優位性を確保できていないために、交渉において不利な状況です。だからこそ、深刻な円安などに悩まされる結果に至ったのです。今こそ日本の戦略をもう一回練り直すべきだと感じています。

## 日本のお米を世界に

**小池** 一つには、戦略の要になる戦略物資、日本が持つ資源は何か、ということです。多くの日本人は気づいていないのですが、私は、日本のお米や木材といった一次産業の物資が、世界において強みがあると思っています。例えば日本のお米は、世界の和食ブームの中で、一番基礎になるものです。長粒米とは違いますが、お寿司では銀シャリというぐらい、光るものです。この日本の美味しいお米を戦略物資とすれば良いのだと思います。日本の農業の政策では、ずっと減反政策が続いてきました。米の生産量を増やす政策ではなく、減

——小池都知事には、そうした構想、発想を形にすること、そして発信力が非常におおありだと感じています。

**小池** 結局政治も、お米を世界にどう売るかも、全てマーケティングなんです。クールビズも、HITも、いかに多くの人に共感してもらおうかです。どうすれば人の心に訴えられ、行動してもらえるかを常に考えています。

クールビズは、政策としては予算を非常に抑えることができました。他の政策と比べて、ゼロが4つ5つほど少なかったと思います。とにかく皆が環境問題を理由に、クールビズのおかげで暑い夏に涼しく過ごせるということ。地球温暖化対策は世界中の共通課題でもあり、既に大義はありました。そこに、皆さんの共感を呼んで、社会に浸透したのです。

らす政策に、何千億円もかけたのです。田んぼを減らすことで何が起きているか。山は荒れ、川は枯れ、治山治水の問題につながっていきます。

そうではなく、世界には80億人がいるのですから、戦略物資であるお米をむしろ増産して、しっかりとマーケティングをした上で、ブランド米として世界に売り込んでいくことが大事です。世界の1割の人が日本のお米を食べようとすれば、それだけで8億人の市場となります。そんなマーケットを狙わないでどうするんだということですよ。

## クールビズとマングースバスターズ

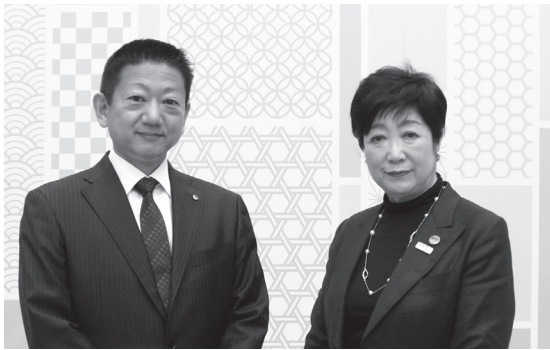
いまだに環境関係の人達から、日本から発信した「クールビズ」は良い政策として語られています。

——言葉の力ですね。発信力が実を結んだ実例です。

**小池** 私が環境大臣に就いた時に、三つのことに取り組みました。一つ目は、クールビズを始めとした地球温暖化対策。二つ目は、風呂敷を使った循環型社会の推進。そして三つ目が、生態系、外来生物対策です。

その外来生物対策ですが、奄美大島のアマミノクロウサギという絶滅危惧種を、特定外来生物のマングースから守るために「マングースバスターズ」を環境省に作りました。2005年ごろの話です。奄美大島の森で、マングースが多く出没する地域を調べ、マング





ける場所をし  
っかり作って  
いきたいです  
し、都として  
サポートして  
いきたいと思  
っています。  
国内の1・2  
億人のマーケ  
ットだけでは  
なく、世界の  
80億人のマー

ースの捕獲・駆除を進め、だんだん包囲網を  
小さくしていくという事業を根気強く続けて  
いました。すると先日、「奄美大島のマング  
ース捕獲が4年間ゼロ」というニュースにな  
りまして、2023年度に「根絶宣言」がで  
きる目処が立ったそうです。当時の担当者に  
「良くやりましたね」と連絡をしました。そ  
のような形で、都政以前から環境問題に対す  
る政策に携わってきました。

## スタートアップへの支援

——今後の東京都や日本を担う若手経営者、  
若手読者に対して、コメントはございま  
すか。

小池 もっと日本でもスタートアップや起業  
家への投資が増えるべきだと思っています。  
東京都では起業家を育てたいという想いで、  
彼らへの支援を拡充していきたいと考えてい  
ます。

しかし、起業しようにも、登録や申請には  
結構な手間がかかります。新たな事業を考え  
つく人でも、申請や登録が得意ではなくてサ  
ポートを受けられなければ、もったいない話  
ですよ。

世界中で有名なアーティストも、本人たち  
が良い音楽を追求したのもありますが、良い  
プロデューサーがいたからこそ知名度も高ま  
りました。世界で活躍するプロスポーツ選手  
も、本人の技術や努力ももちろん素晴らしい  
けれども、実際に年俸をチームと交渉するの

ケットを指せるような、そんな若手経営者  
を、東京都は後押ししていきたいです。例え  
ば、バイオ燃料のベンチャー企業などは、サ  
ステナブルやカーボンニュートラルなど、世  
界に通じるキーワードを押さえています。G  
AFAにも負けない日本発の世界企業が生ま  
れ育つ土壌を、東京都から育てていきます。  
——若手経営者もどんどん育ててほしいです  
ね。本日は誠に、ありがとうございました。

### ■こいけ・ゆりこ■

- 1952年 兵庫県生まれ
- 1992年 参議院議員選挙 当選
- 1993年 衆議院議員選挙 当選
- 2003年 環境大臣
- 2007年 防衛大臣
- 2016年 東京都知事

